



鳥飼小 家読5年目のとりくみ

読書で家族の絆を深めよう

昨年、読書ベンチが鳥飼小学校の「大きな木の下に」置かれました。

本校保護者の方も、小さなお子様を読み語り。卒業生が二人並んで、校舎を眺める・・・児童や卒業生、地域の憩いの場として、「読書」の場としても活用されていましたが・・・。



うちどく

家読、親子で読書



インターネットやスマートホンの普及など、若者や子どもを取り巻くメディア環境が大きく変化し、同じ屋根の下に住んでいても、別々の時間を過ごすことが多くなってきています。そこで、読書を通して、家族のコミュニケーションを図り、薄れつつある家族の絆を深めようと近年注目されているのが「家読（うちどく）」です。本校では5年前から取り組んでいます。

昨年の10月28日付神戸新聞に東北大学の研究者の講演で「**読書が脳を活性化。学力高まる傾向**」「**小学生は勉強と読書をそれぞれ1時間ずつ、睡眠はたっぷり8時間以上**」と目安が示されているとありました。読書する際に働く脳の機能も説明し、読書が脳機能の広範囲を活性化して神経回路を強化すると解説。**効果が高い読み方として音読**を取り上げ、「音読は究極の脳トレ。これまでの研究で、音読以上に脳を活性化させるものは見たことがない」と勧めた。とあります。

本校の課題として、読書好きの児童は、自らどんどん読むけれど、興味のない児童は全く読書しないという、「二極化」があげられます。

コロナ禍で休校が長引いている今こそ、親子で「家読」はいかがでしょう。お家の方が「読み聞かせ」をしてあげたり、大人と子ども、それぞれが、好きな本を同時間に読んでみたり。

また、家族が同じ本を読んで、感想を語り合ったり。児童書、教科書にもいい話が多いですよ。

子らよ 子ら、書を読み、解せ、文を書け。人の目を見て言葉語れよ。

鮎原・都志、そして鳥飼にも住んでいた深田公之少年（阿久氏の本名）は読書好き、映画好き。日本語にこだわり、長じては「言葉の魔術師」のように「歌」の中に三分間ドラマを見事に展開して見せてくれました。

そんな氏は、子どもたちに「本を読みなさい。考えなさい。文章を書きなさい。そして、人の目を見て自分の言葉で自分の考えを語りなさい。」と語ってくれました。氏の願いは教師である私の願いとも重なり、いつも私の教室にはこの言葉がありました。

今は鳥飼小学校すべての児童に、この言葉の意味を伝えたいと思います。

コロナ禍の今こそ、「家読」しよう。親子で読書タイム。

「今年のGW（ゴールデンウィーク）は別の意味。GW（がまんウィーク）らしい。」確かに、お出かけ、外出は控えて、「ステイホーム！」と言われてもつまらない・・・。しかし、今こそ読書。親子で読書。

GWは「子どもと一緒に読書を楽しもう！」と考えてみませんか。

バム・ケロシリーズ 島田 ゆか

バム・ケロが大好きです。かわいくて。友だちのかいちゃん（鳥さん）も、またかわいい。どれを読んでも外れ無し。どれから読んでもよし。おすすめ。

私のお薦め
絵本のよみがたり

**なまえのないねこ 竹下 文子
町田 尚子**

八百屋の猫も、パン屋の猫もみんな「名前」を持っている。でも、ぼくには「名前」がない・・・。ひとりぼっちの猫が「本当に欲しかったもの」とは？

第12回 MOE 絵本屋さん大賞受賞！

わたしのげぼく 上野 そら

これは泣ける・・・ほんとに泣ける。

何度、読んでも泣けてしまう。で、わが家の飼い猫を見ては、切なくなる。わが家の飼い猫に噛まれたり、引っかけられたりするたびに「悪態をつく」が、「わたしのげぼく」を読むと、飼い猫がいとおしくなる。